

## 一番わかりやすい入門書

### 『インターネット』

95年7月にテレビ朝日系でインターネットを利用しながら紹介していく特番「2015 20年後の君へ インターネットからの出発(たびだち)」が放映されたことを覚えている方も多いことだろう。その中で要点を解説していた村井純氏が、そのままの明確さでインターネットを詳しく説明しているのがこの本である。村井氏は日本のインターネット黎明期にJUNETやWIDEプロジェクトでリーダーシップをとっており、この本でありのままの日

本のインターネットの姿を紹介し、インターネットの原理と意味をコンパクトに説明している。とくに4章ではほかの本には見られない日本のインターネットの変遷について語られている。当時のネットワークを構築する苦労がうかがえて興味深い。95年はインターネットブームがおこり、インターネットを解説する本は山のように出版されたが、多くは必要以上にインターネットをほめたあたり、インターネットを知らないといこれからは生き

残れないといった脅迫めいたものばかりで、この本のようにいやりなくインターネットを解説した本は少ない。たった千円でインターネットを知ろうとするのなら、この本を買って喫茶店でコーヒーを飲みながら読むのがベストだろう。



村井 純著  
岩波書店発行  
206頁  
650円  
ISBN : 4-00-430416-4

# 1996年初めに読む本

菊地宏明 Hiroaki Kikutchi

## 明日の生活はデジタルライフ

### 『ビーイング・デジタル』

学生の頃、アルビン・トフラーの「第三の波」を読んでレポートを書かされたことを思い出した。今、自分が講師だったら、この春社会に飛び出す学生にこの本でレポートを書かせるだろう。MITのメディアラボの所長であり、カリフォルニア大の客員教授でもあった著者がインターネットや通信業界に与えた影響は大きい。彼が「明日のデジタルライフ」を語った本書は全米ベストセラーになっている。的確な比

喩とウイットに富んだ筆致

で、デジタル革命の世界に読者は引き込まれることだろう。有線で送られる電話の情報と無線を使って送られるテレビやラジオなどの情報は将来持ち場を交換し、有線でテレビやラジオが、無線で電話の情報が送れるようになるだろうという通信の世界で使われる有名な概念「ネグロポンテ・スイッチ」を自ら説明して、これからのデジタル革命の媒体や価値観、ビジネス、インターフェイスを幅広く扱っている。それでいて、多くのエピソードを盛り込んでいるので、技術書のような難解さはない。また、内容は先端的な事柄を記してあるにもかかわらず、適切な説明が文中でなされるため、用語で中断することなく読みすすめられる。コンピュータ技術者以外の人にも読んでもらいたい。



ニコラス・ネグロポンテ著  
福岡洋一訳  
西和彦監訳  
アスキー発行  
342頁  
2200円  
ISBN : 4-7561-1604-3

## 世界が注目する“彼”の著書

### 『ビル・ゲイツ未来を語る』

昨年ウィンドウズ95で話題を提供したマイクロソフト社の会長兼CEOであるビル・ゲイツ氏の初めての著作である。20年で売り上げ60億ドルの企業を築きあげた著者が、20年を振り返り、さらに情報化社会の未来を予測している。この本で彼の技術者や経営者としてのセンスをそこここに見つけることができるだろう。たとえば「マイクロソフトのスローガンは、Information At Your Fingertips (指先に情報を)」というものだが、この言葉は、ネットワークそのものよりも、そこから得られる利益に焦点を当てている」とか、「進歩はいやでもやってくるのだから、それを最大限に利用し

ない手はない-わたしはそう考えるタイプの人間だ」という。独自のビジネス哲学を持った彼はインターネットを次のビジネスのターゲットに選んだ。「もしコミュニケーションがただ同然になったらどうなる?」という問いかけをビジョンの糸口にして、未来を語っていく。奇しくも95年12月にコンパック社の会長ベン・ローゼン氏はインターネット関連ビジネスについて「ネットスケープのような新興企業と、マイクロソフトのようにすでに成功した企業との戦いが見物だ」とコメントしている。ならば、この本は必読だ。



ビル・ゲイツ著  
西和彦訳  
アスキー発行  
446頁  
1800円  
ISBN : 4-7561-0231-X

## CU-SeeMeの完全ガイド

### 『INTERNET TV with CU-SeeMe』

本誌でおなじみのテレビ会議ソフトCU-SeeMeを解説した本がやっと出た。クライアントの導入からリフレクターの設置まで、CU-SeeMeのことがこの1冊でわかる。マッキントッシュ、ウィンドウズ3.1/95へのインストールや使い方が解説されており、パワーマッキントッシュで初期のオープンポートにみられるTCP/IPがうまく動かない問題を避ける方法もその中で説明されている。さらに、あまり解説されないことのないリフレクターのコンフィグレーション時のオプションも取り上げられている。リフレクターはSunなどのワークステーション以外にも

Linux、FreeBSDといったインテルCPUベースのUNIXやウィンドウズNT、さらにA/UXやMachTenなどのマッキントッシュベースのUNIXに載せる方法が説明されている。パソコンでリフレクターを立ち上げようと考えているのなら参考にするとよい。また、リフレクターを作るのはどうも…という消極派は、世界のリフレクターガイドを参照して、世界中のインターネットピープルヘアクセスしても面白い。そのほかCU-SeeMeに似たテレビ会議システムもいくつか紹介されており、インターネットで行うテレビ会議システムを知るにも適している。



Michael Sattler 著  
Sams.net Publishing 発行  
300頁  
25ドルUSA  
ISBN : 1-57521-006-1

## 英語の電子メール文例集

### 『そのまま使えるEメールの書き方・使い方』

英文電子メールを利用するための英語学習の本。例文、単語と熟語の説明、翻訳、ポイントという項目で53の例文をあげ、電子メールで使われる表現を学べるようになっている。例文はお知らせや問い合わせといった目的別に18例文、スポーツ、買い物、旅行などのトピック別に35例文が用意されているが、そのまま例文を活用しようとするなら、もっと例文を載せてほしいところだ。これだけ見ると、英語の本で、電子メールとはあまり関係ないように思える

が、電子メールでは書き方が手紙と違うので参考になる。もっとも、年賀状の図版集のように例文をそのまま真似て電子メールを出そうとしても、英語が苦手な人にはけっこう無理がある。きっと学生の頃の英文読解の参考書を思い出してしまうことだろう。英語を使っている人が、電子メールを出すときの作法を例文で学ぼうとする使い方のほうがしっくりくると思われる。とても残念なのは、いい文を書くポイント、たとえば「受動態を多用すると積極性に欠け被害者意識の強い人間と思われる」といった英文嫌いは目からウロコが落ちるようなことがうまくまとめられていないことで、このような原則を前提に例文を解説してくれればおもしろかった。



永網浩二、石塚美佳、  
澤木 泰代 著  
日本経済新聞社発行  
206頁  
1800円  
ISBN : 4-532-14414-0

## マックで作れるWWWサーバー

### 『マッキントッシュWWWパーフェクトガイド』

マッキントッシュでWWWを利用するユーザーがさらに一歩ステップアップしたいときに読みたい解説書。WWWの背景やブラウザの概要とブラウザの利用解説、電子出版のためのHTMLレクチャー、HTTPサーバーの構築の3つの柱からなる。ブラウザの解説では、原書はMacWebやNCSA Mosaicを例にあげていたのに対し、日本版ではほぼ標準ソフトといえるNetScape Navigatorを中心にまとめ直されている。あれこれとよくば

らない結果読みやすくなった。利用するために十分な情報が盛り込まれている。謎めいたイントロで始まるNavigatorのマニュアルよりも読みやすく、身近に置いておきたい。HTMLの文法に関する記述は少ないが、「こうしたまちがいを起こしやすい」といったガイドラインはHTML作成の参考になる。3つめの柱となるのはMacHTTP(マッキントッシュ用HTTPサーバーソフト)の解説だ。本誌付属のCD-ROMなどでソフトは知っていてもあまり解説されないので使

ったことがない人も多いはず。このサーバーソフトでWWW情報を発信する環境を作っていく。クリッカブルマップ作成などで重要となるAppleScriptやAppleEventに関する説明に乏しいので、これらを解説した本と併読しなければならない。



Mary Jane Mara 著  
インプレス・ラボ監訳  
インプレス発行  
206頁  
1800円  
ISBN : 4-8443-4725-X



## [インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

**株式会社インプレスR&D**

All-in-One INTERNET magazine 編集部

[im-info@impress.co.jp](mailto:im-info@impress.co.jp)